

# 朝野新聞

廣島縣下備後國笠岡町り住む  
川上松助とツノの妻の名を春とよび  
明治二年の頃よりして互に浮気の  
轉ひ合ひ友白髪迄約束し夫婦と  
なつて九年あり常にお夫々大酒を  
好む女狂ひの故時お大つてくらと日へ  
少く泣く教度の異見さへ聞ければ  
ちり打つさき荒きまの多くし  
止る気色もあさる故所詮行まを  
覺束縛しつゝいせんといふ心と悟る  
歎きに沈むとまろと思案を定めつ  
昨明治十年十月五日の夜半又松助  
例の大酒を酔伏す折とをうと出又  
庖丁逆手に持て只下突咽喉をえ深  
く貫けお松助は七轉八倒其息をえ  
果たれへ同し及お我の胸へ突立し共  
死すまらばその筋もく療治をらへ  
全快の上る十五日遂にお泉首小  
所せよはたり



75  
70  
65  
60  
55  
50  
45  
40  
35  
30